

五條市ビジョン
令和4年度
事業評価資料

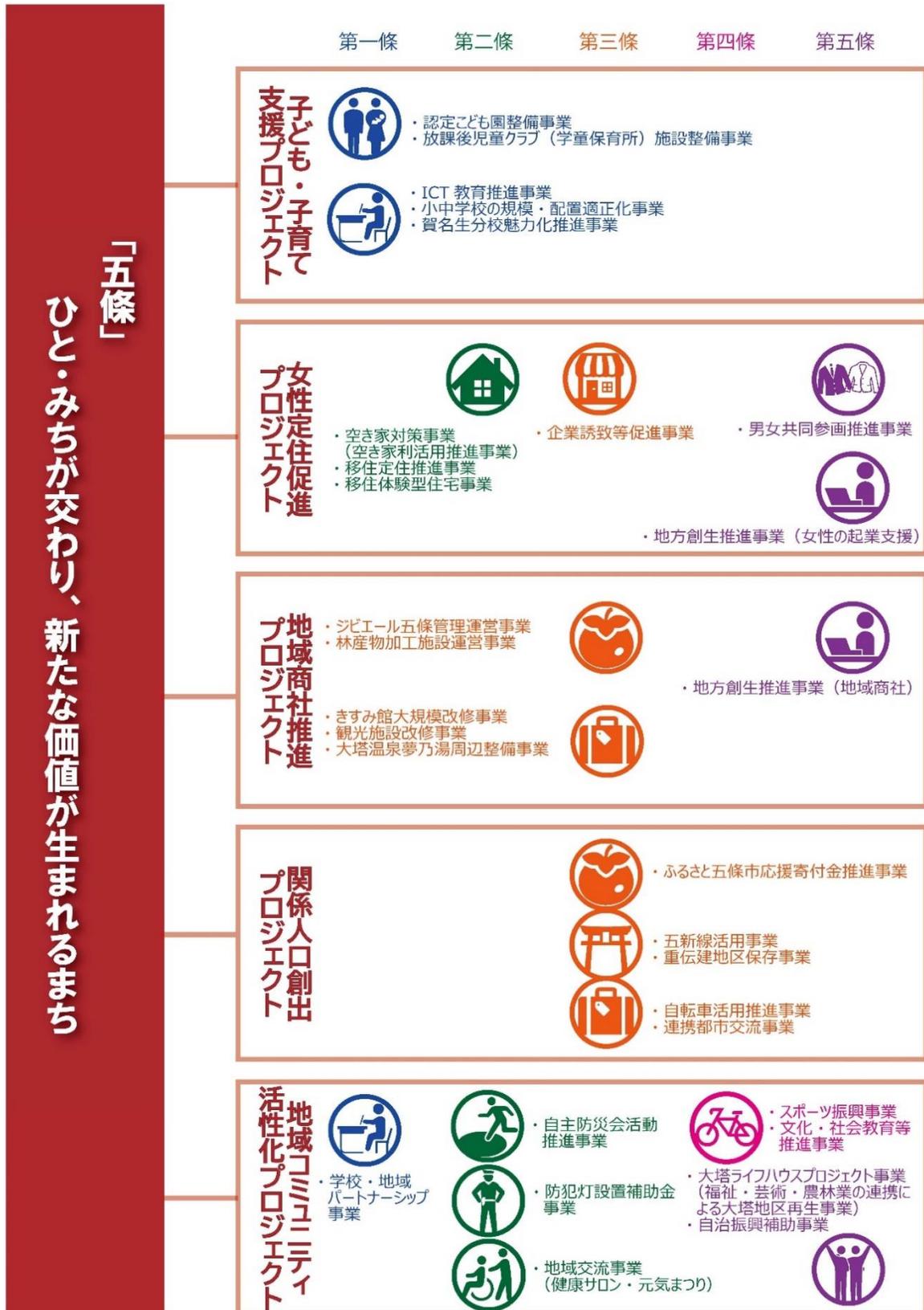
令和5年7月
五條市ビジョン推進懇話会

目次

| | |
|---|----|
| ● 総合戦略プロジェクトとビジョン事業の関係性 | 2 |
| ● 基本目標における数値目標と進捗状況の把握 | 4 |
| ● 総合戦略プロジェクトの概要とその進捗状況 | 5 |
| (1) 子ども・子育て支援プロジェクト | 5 |
| (2) 女性定住促進プロジェクト | 9 |
| (3) 地域商社推進プロジェクト | 13 |
| (4) 関係人口創出プロジェクト | 17 |
| (5) 地域コミュニティ活性化プロジェクト | 21 |
| ● 地方創生交付金事業の取組とその進捗状況 | 25 |
| (1) 地域商社産業創出推進事業 | 25 |
| (2) 高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト | 26 |
| (3) 新庁舎及び旧庁舎周辺を核としたにぎわいづくりによる関係人口創出プロジェクト | 27 |

総合戦略プロジェクトとビジョン事業の関係性

総合戦略では、以下に示すように、地方創生を目指し複数のビジョン事業を組み合わせたプロジェクトを推進することで、『「五條」ひと・みちが交わり、新たな価値が生まれるまち』を実現しようとするものであることから、事業評価は、これらのプロジェクト事業の評価を以て計画全体の進捗が図れるものとしています。



(1) 計画の位置づけ

本市においては、国が定めた「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」、並びに「奈良県地方創生総合戦略」を踏まえ、平成 27 年 10 月に「五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、五條市の地方創生の推進に向けて取り組んできました。

今回、総合計画と総合戦略を一体の計画として「五條市ビジョン」を策定しましたが、「まち」「ひと」「しごと」の創生に向け、官民連携により、分野横断的に取り組む具体的なプロジェクトを「総合戦略」として位置づけています。

(2) 計画の基本目標

五條市総合戦略は、総合計画と一体の計画（五條市ビジョン）として、市の目指す方向性を示すものです。そのため、五條市総合戦略の基本目標は、国の 4 つの基本目標を踏まえ、総合計画の基本理念と同じものを設定します。

第五條については、これら基本目標を下支えするものとして位置づけます。

第三條と第四條については、特に相互連携に留意して取り組むものとします。

| 国の基本目標 | 五條市の基本目標 |
|---------------------------------------|------------------------|
| 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 第一條 子どもを育てたいまちをつくる |
| 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する | 第二條 安心して定住できるまちをつくる |
| 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする | 第三條 地域資源を活かした産業のまちをつくる |
| 地方への新しいひとの流れをつくる | 第四條 南部地域の交流拠点となるまちをつくる |

下支えするものとして位置づけ

第五條 すべての人が社会参加するまちをつくる

基本目標における数値目標と進捗状況の把握

下記のとおり、基本目標に沿って目指す数値目標を設定していますので、総合戦略のそれぞれの数値目標に対する計画期間終了時の実績値を比較することで、総合戦略の進捗状況に併せ、五條市ビジョン全体の進捗状況の把握を行います。

更に毎年の進捗状況の把握については、プロジェクト毎に設定する重要業績評価指標（KPI）に対する年度末の数値の計測を行います。

| 五條市の基本目標 | 総合戦略プロジェクト | 目標指標 | 目標値 | 単位 |
|------------------------|---------------|--------------------|------------------|----|
| 第一條 子どもを育てたいまちをつくる | ① 子ども・子育て支援 | 子ども女性比 | 0.160 (令和6年) | - |
| 第二條 安心して定住できるまちをつくる | ② 女性定住促進 | 女性人口の社会増減 | 0 (令和5年→令和6年) | 人 |
| 第三條 地域資源を活かした産業のまちをつくる | ③ 地域商社推進 | 地域商社の新規事業数 | 4 (令和6年) | 件 |
| 第四條 南部地域の交流拠点となるまちをつくる | ④ 関係人口創出 | ふるさと納税「体験型返礼品」申込件数 | 100 (令和5年度) | 件 |
| 第五條 すべての人が社会参加するまちをつくる | ⑤ 地域コミュニティ活性化 | 地域防災組織による防災訓練参加者数 | 810 (令和5年度) | 人 |

総合戦略プロジェクトの概要とその進捗状況

(1) 子ども・子育て支援プロジェクト

基本的方向性

本市の子ども女性比は非常に低く、出生数は年々減少しており、高齢化率の上昇に伴う死亡数の増加により、自然減の状態が続いています。このような状況を改善するためには、若い世代がより多くの子どもを生みたい・育てたいと思える環境をつくる必要があります。

このような状況を打開すべく、保育サービスの充実や子どもたちへのより良い教育環境づくりに取り組み、子どもを生み、育てやすい環境づくりを推進します。

事業展開イメージ

● **幼**児教育・保育の環境を整える

親が子どもを預けて安心して働けるよう、また、必要な時に気軽に子どもを預けられるよう多様な保育サービスの充実

- 認定こども園整備



● **教**育の環境を整える

子どもたち一人ひとりが、必要な基礎学力を身に付け、自ら考え行動できる人となる教育環境の整備

- 学童保育所施設整備
- ICT教育推進
- 小中学校の規模・配置適正化



数値目標

本市の子ども女性比は、奈良県や国の値を下回っていますが、近年は微増傾向にあります。

今後も、子育て関連の支援施策等の推進により、子ども女性比[※]の微増傾向を継続させることを目標とし、5年後における目標値は0.160と設定します。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

子ども女性比の推移

※子ども女性比とは、ある年の0-4歳の人口（男女計）を、同年の15-49歳女性人口で割った値。

重要業績評価指標（KPI）

| 重要業績評価指標名 | 現状値（H30） | 目標値（R6） |
|---------------------------------|------------|---------|
| ①幼児教育・保育の環境を整える ：公立認定こども園園児数 | — (未整備) | 295人 |
| ②教育の環境を整える ：教育情報端末機器の整備率 | 3.8% | 100% |

※参考：H30年度 公立保育所園児：356人・公立幼稚園児：69人

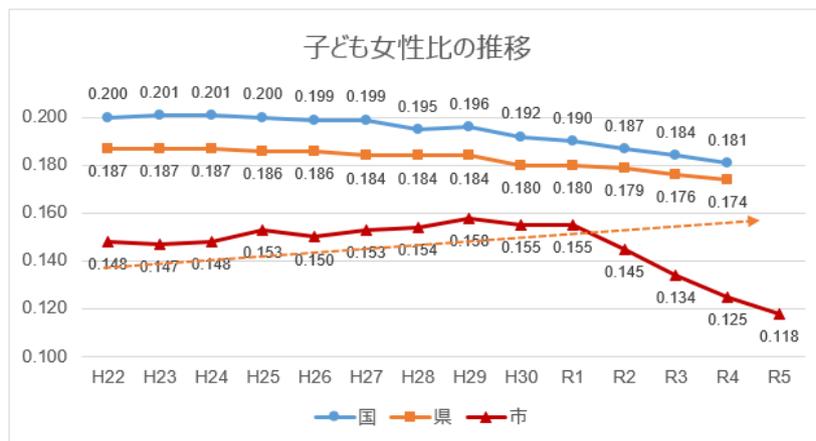
関連事業

| 関連事業 | ビジョン事業との関係性 |
|-----------------------|-------------|
| ①幼児教育・保育の環境を整える | |
| 認定こども園整備事業 | 第一條 |
| ②教育の環境を整える | |
| 放課後児童クラブ（学童保育所）施設整備事業 | 第一條 |
| ICT教育推進事業 | 第一條 |
| 小中学校の規模・配置適正化事業 | 第一條 |
| 西吉野農業高校魅力化推進事業 | 第一條 |

プロジェクトの進捗状況

子ども・子育て支援プロジェクトでは、子ども女性比を目標指標と設定し、一年あたり 0.009 の増加を目標としています。しかしながら、本市においては、令和 2 年は 0.145、令和 3 年は 0.134、令和 4 年は 0.125 と一年あたり平均 0.01 減少し、奈良県や国と比較しても減少率は大きい結果となりましたが、令和 5 年は 0.118 となり、減少傾向はややゆるやかになりました。

15 歳から 49 歳までの女性人口が、令和 2 年から令和 4 年にかけて一年あたり約 5% 減少しているのに対し、0 歳から 4 歳までの人口は 10% 以上減少しており、少子化が進んでいる現状です。このような状況を打開するため、若い世代に子どもを生みたい・育てたいと感じてもらえるまちの実現に向けた環境づくりに取り組んでいます。



0-4 歳の人口（男女計）と 5 歳階級別女性人口の推移

全体

| | 年齢別 | H31 | 割合 | R2 | 割合 | 前年度比 | R3 | 割合 | 前年度比 | R4 | 割合 | 前年度比 | R5 | 割合 | 前年度比 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 子ども (男・女) | 0-4 | 783 | — | 703 | — | 89.8% | 616 | — | 87.6% | 546 | — | 88.6% | 491 | — | 89.9% |
| 女性 | 15-19 | 659 | 13.1% | 635 | 13.1% | 96.4% | 584 | 12.7% | 92.0% | 573 | 13.1% | 98.1% | 548 | 13.2% | 95.6% |
| | 20-24 | 687 | 13.6% | 675 | 13.9% | 98.3% | 647 | 14.1% | 95.9% | 610 | 14.0% | 94.3% | 599 | 14.4% | 98.2% |
| | 25-29 | 636 | 12.6% | 600 | 12.4% | 94.3% | 571 | 12.4% | 95.2% | 526 | 12.0% | 92.1% | 468 | 11.3% | 89.0% |
| | 30-34 | 574 | 11.4% | 573 | 11.8% | 99.8% | 557 | 12.1% | 97.2% | 539 | 12.3% | 96.8% | 529 | 12.7% | 98.1% |
| | 35-39 | 706 | 14.0% | 672 | 13.8% | 95.2% | 607 | 13.2% | 90.3% | 581 | 13.3% | 95.7% | 543 | 13.1% | 93.5% |
| | 40-44 | 813 | 16.1% | 779 | 16.0% | 95.8% | 733 | 15.9% | 94.1% | 679 | 15.5% | 92.6% | 668 | 16.1% | 98.4% |
| | 45-49 | 964 | 19.1% | 920 | 19.0% | 95.4% | 897 | 19.5% | 97.5% | 861 | 19.7% | 96.0% | 798 | 19.2% | 92.7% |
| 計 | 5,039 | — | 4,854 | — | 96.3% | 4,596 | — | 94.7% | 4,369 | — | 95.1% | 4,153 | — | 95.1% | |
| 子ども女性比 | | 0.155 | — | 0.145 | — | 93.2% | 0.134 | — | 92.5% | 0.125 | — | 93.2% | 0.118 | — | 94.6% |

重要業績評価指標（KPI）に対する進捗状況

| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|----------------------------------|------------|----------------------|----------------------|-------|---------|
| ① 幼児教育・保育の環境を整える ：公立認定こども園園児数 | — (未整備) | 281 人 (R5.4.1 時点) | 317 人 (R5.4.1 時点) | 88.6% | 295 人 |

参考：平成 30 年度 公立保育所園児：356 人・公立幼稚園児：69 人（合計：425 人）

平成 30 年策定の「五條市立認定こども園整備基本計画」に基づき、2 つの幼稚園と 6 つの保育所を統

合し、新たに3つの認定こども園を開園しました。令和4年度は「五條市就学前教育・保育研究会」を組織し、保育教諭を対象とした研修会を開催し、認定こども園の教育・保育内容の理解を深めるとともに、多様な保育ニーズに対応できる知識及び技術の修得を図りました。今後は、さらに保育教諭が連携・協働し、実践的な能力を身に付け、地域のニーズに応じた魅力ある就学前教育・保育の実現を進めます。

| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|-----------------------------|----------|---------------------|---------------------|------|---------|
| ②教育の環境を整える ：教育情報端末機器の整備率 | 3.8% | 100% (R5.4.1 時点) | 100% (R5.4.1 時点) | 100% | 100% |

教育情報端末の整備については、令和3年度に整備率100%となり目標を達成していますが、令和4年度は、さらなる環境整備となるインターネット回線の改善工事を行いました。そのことで、回線スピードが上がり、大容量通信への対応も可能となりました。また、整備されたICTを用いた教育を円滑に行うため、令和3年度は各校に月3回派遣していたICT支援員を、令和4年度からは月4回の派遣に増やし、教員のICT授業活用サポート等を充実させました。インターネットによる情報収集やプログラミング学習、デジタル教材の活用といった授業での活用はもとより、児童生徒の欠席時や感染症拡大等による学級閉鎖・休校時におけるオンラインによる授業配信の実施等、広く活用が進んでいます。

放課後児童クラブ（学童保育所）施設整備事業では、令和5年度に北宇智小学校が五條東小学校に統合されることを受け、五條東小学校の敷地内に宇智学童と北宇智学童を統合させた学童保育所を整備することを目的に事業を進めてきました。しかしながら、五條東小学校施設の確認調査が必要となったため、整備事業には着手することができませんでした。そのため、令和4年度は、宇智学童と北宇智学童を令和5年度以降も継続して運営するための検討を重ねました。

平成30年策定の「五條市学校適正化基本計画」に基づき、学校規模・配置の適正化最終年度として、北宇智小学校・五條東小学校学校統合協議会等を開催し、令和5年度の開校に向け取り組みを進めました。小中学校の規模や配置の適正化を進めることにより、義務教育の9年間で一貫性のある学習指導や生徒指導を行い、一定の集団の中で一人ひとりに応じた多様な教育を提供できる教育環境が整いました。

五條市立西吉野農業高校魅力化推進事業ではプロファーマーによる実践指導の充実のため、専門的なノウハウを持つ、地元農家・農業生産法人を中心とした「西吉野農業高校を支援する会」の協力を得ながら様々な農業実習・就労体験活動を行っています。また、農業教育高度化事業や就労体験活動を通じて、生徒の農業技術を向上させ、卒業後も市内に残って就農したいと考える生徒を確保することができ、令和4年度の15名の卒業生のうち、1名が市内農家等に就農し、1名が県内の農業系の大学に進学しました。さらに「地域みらい留学」の規模を拡大するため、県内中学校や、近畿圏内府県、愛知県、三重県を訪問しPR活動を行い、本校の存在について一定の周知を図ることができました。引き続き、農業実習・就労体験等を通じ、魅力ある学校づくりに取り組みます。

プロジェクト推進のための今後の取組

今後も、地域のニーズに応じた魅力ある就学前教育・保育及び小中学校教育の充実等、より良い教育環境づくりに取り組み五條市に住む人が子どもを産みやすく、そして育てやすい環境づくりに努めます。

(2) 女性定住促進プロジェクト

基本的方向性

本市においては、進学や就職に伴う若者の流出が問題となっており、それに伴い出生数も減少するという悪循環に陥っています。このような状況下においては、人口減少に歯止めをかける上で、女性の流入促進、流出抑制に取り組むことは非常に重要です。

そのため、家庭と仕事の両立支援や就業・起業支援、移住定住支援等、女性が活躍できる環境の整備により、女性の定住促進に取り組めます。

事業展開イメージ

●家庭と仕事の両立支援

働きながらであっても子育てしやすい環境を整備

- 男性の介護・育児への参画促進
- 子育て支援サービスの充実



女性が就業しやすい環境づくり

●活躍できる機会の創出

「働く」に至るまでのトライアルとして、地域のなかで女性として活躍できる場や機会を創出

- 企業と連携した女性の人材活用
- 地域活動における活躍の場の創出



住まいの支援

●移住定住支援

本市で暮らしたい・働きたい女性のための移住定住支援

- 移住体験型施設住宅の整備
- 空き家の改修への補助制度の整備



●女性の起業支援

女性ならではの感性やライフスタイルを生かした起業の支援

- 空き家を活用した働く場の整備促進
- 起業家ネットワークの整備



●女性の就業環境の改善

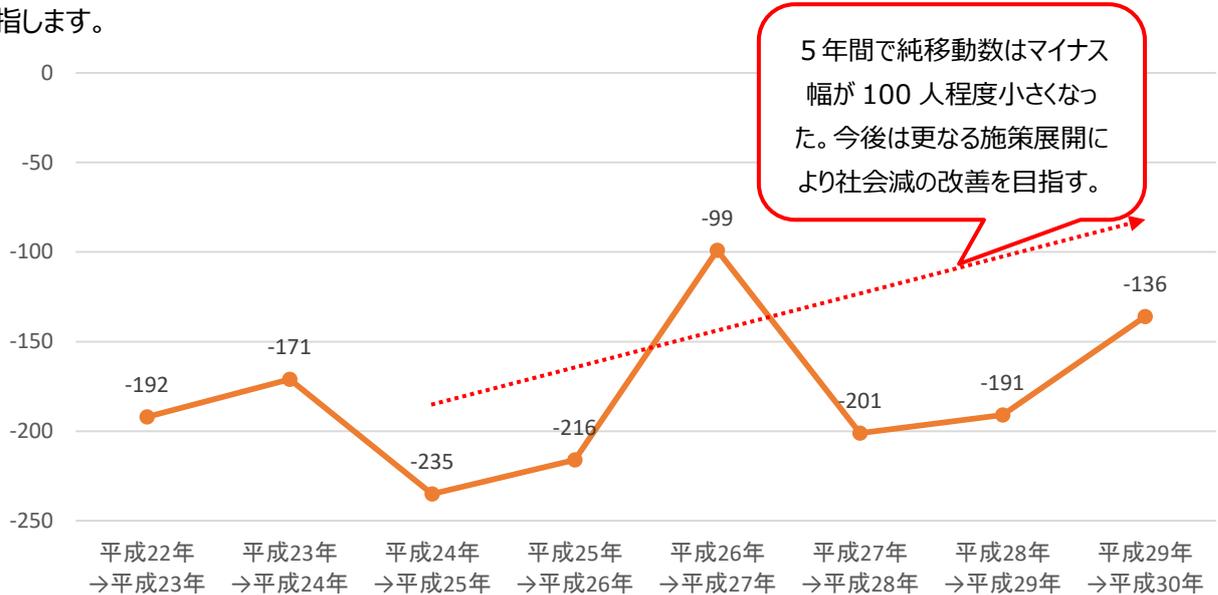
女性のライフステージに合わせた就業環境の改善

- 企業と連携した労働環境の改善
- 事業主を対象としたセミナー等の開催



数値目標

近年、女性の純移動数はマイナスの状況が続いており、平成29年→平成30年においては、-136人となっています。各種施策の推進により、社会減の状態を改善し、5年後に女性の純移動数を「0人」とすることを目指します。



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

女性の純移動数

重要業績評価指標（KPI）

| 重要業績評価指標名 | 現状値（H30） | 目標値（R6） |
|------------------------------------|------------|---------|
| ①女性が就業しやすい環境づくり ：女性就業推進イベント参加者数 | — （未実施） | 300人 |
| ②住まいの支援：空き家情報バンクを利用した 女性転入者数 | — （未実施） | 6人 |

関連事業・主体

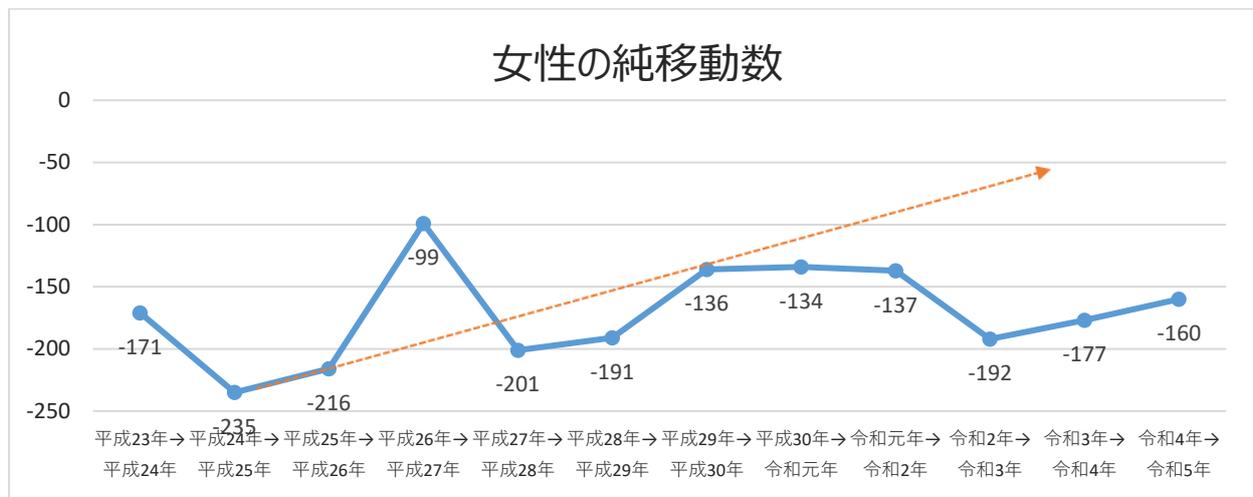
| 関連事業 | ビジョン事業との関係性 |
|---------------------|-------------|
| ①女性が就業しやすい環境づくり | |
| 男女共同参画推進事業 | 第五條 |
| 地方創生推進事業（女性の起業支援） | 第五條 |
| 企業誘致等促進事業 | 第三條 |
| ②住まいの支援 | |
| 空き家対策事業（空き家利活用推進事業） | 第二條 |
| 移住体験型住宅事業 | 第二條 |
| 移住定住推進事業 | 第二條 |

プロジェクトの進捗状況

女性定住促進プロジェクトでは、女性の純移動数を目標指標と設定しています。平成 29 年→平成 30 年において-136 人であったことから、本市では、マイナスの状況からの脱却を目指し、5 年後に「0 人」とすることを目標値と設定しています。

しかしながら、本プロジェクト取組開始以降毎年目標値を下回り、特に令和 2 年以降は現状値であった-136 人よりも大きく減少しています。目標値は達成できていませんが、-192 となった令和 2 年→令和 3 年以降、徐々にではありますが、回復傾向にあります。

女性が活躍できる環境づくりや住まいの支援等を行い、女性の定住促進に取り組みます。



重要業績評価指標（KPI）に対する進捗状況

| 重要業績評価指標名 | 現状値 (H30) | 実績値 (R4) | 目標値 (R4) | 達成率 | 目標値 (R6) |
|------------------------------------|--------------|-----------------|-------------|------|-------------|
| ①女性が就業しやすい環境づくり ：女性就業推進イベント参加者数 | — (未実施) | コロナにより実施 できず | 200 人 | 0.0% | 300 人 |

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、女性就業推進イベントは実施できませんでしたが、女性の起業支援の一環として、令和 3 年度に引き続きオンラインによる WEB ライター養成講座を 3 回開催し、新たに 5 名の受講者が参加しました。それにより、女性がインターネット上のライターとして活動し、収入につながる例も出てきています。継続して地方での働き方を提案することにより、活動の定着に繋がっています。

その他の関連事業では、男女共同参画週間に配布する啓発物品の作成に当たって広告主を募集するなど、男女共同参画社会実現に向けた事業主の意識の向上に努めました。また、令和 5 年 4 月からのパートナーシップ宣誓制度の導入に向け、「五條市パートナーシップ宣誓制度の取扱いに関する要綱」を策定しました。

| 重要業績評価指標名 | 現状値 (H30) | 実績値 (R4) | 目標値 (R4) | 達成率 | 目標値 (R6) |
|---------------------------------|--------------|-------------|-------------|--------|-------------|
| ②住まいの支援：空き家情報バンク を利用した女性転入者数 | — (未実施) | 5人 | 3人 | 166.7% | 6人 |

令和4年度の五條市空き家情報バンクを利用した転入者のうち女性の数は5人で、目標値を達成しました。また、空き家の賃貸・売買成立件数は8件で、目標値の3件に対し、267%の達成率となりました。このほか、空き家情報バンクの利用登録者数303名のうち、新規登録者は115名で、コロナ禍等の影響により、テレワーク環境の整備が進んだことで、地方移住への関心が高まっていることが原因と考えられます。一方、物件登録数は33件（新規登録物件は6件）で、利活用可能な空き家の掘り起こしが課題となっています。

西吉野町平雄の移住体験型住宅の利用については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度は約4か月間、県外から（内2か月間は完全閉鎖）の受入れ停止を余儀なくされました。そのため、令和4年度の施設利用者は3組となり2組の増加となりました。今後は、奈良県広報紙等での周知や市HPでの施設紹介を継続して実施し、利用促進を図ります。

若い世代を支援し、移住定住を促進するため、結婚新生活支援事業補助金を交付し、結婚生活をスタートするためのコストの助成を行っています。

令和4年度に同交付金を活用して新生活を開始された新婚世帯は、2世帯となりました。この制度の活用を促進するため、民間不動産業者でのチラシの設置、市ホームページや広報五條への掲載をしています。さらに制度の活用が進むよう、今後はLINE等のSNSも活用して事業の周知に努めます。

プロジェクト推進のための今後の取組

本市の課題の一つである人口減少に歯止めをかけるうえで、女性の流入促進・流出抑制に取り組むことは重要であることから、家庭と仕事の両立支援や就業・企業支援、女性の就業環境の改善、女性が活躍できる機会の創出、住まいの支援など、複合的に取り組み、女性の定住促進を推進します。

(3) 地域商社推進プロジェクト

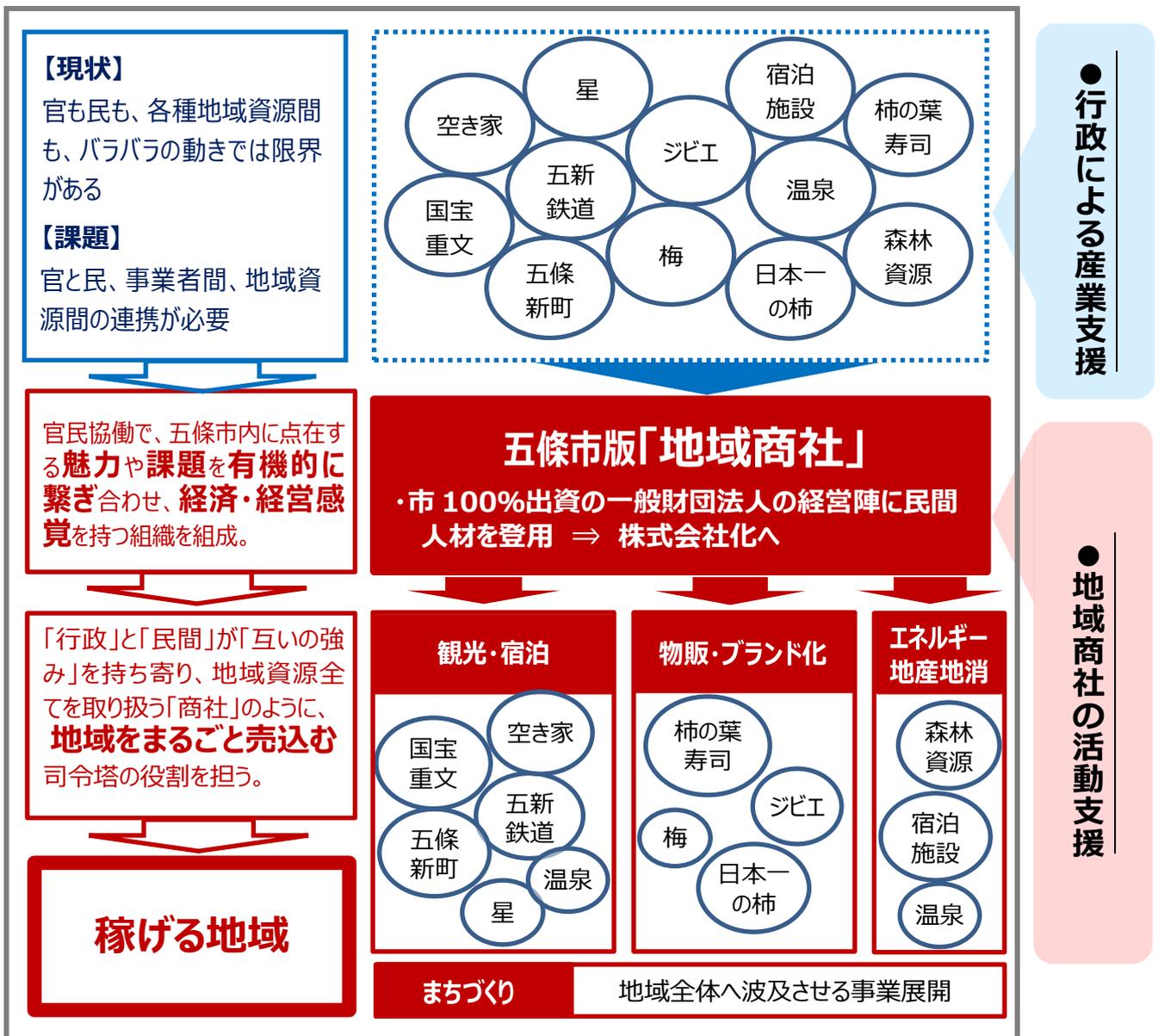
基本的方向性

本市においては、平成 29 年 3 月に五條市内の民間事業者が参画する「五條市地域・産業ブランド推進協議会」を設立し、市内にある地域資源を最大限に活用し、産業振興や雇用促進につなげるための事業や地域ブランドを高めるための方策を検討しています。

さらに、令和 2 年度には、地域連携の核となる組織として一般財団法人大塔ふる里センターを母体に、「五條市地域商社」を設立しました。

本プロジェクトにおいては、市と地域商社で連携しながら、地域資源を活かした産業振興を進めます。

事業展開イメージ



数値目標

地域資源を活かした産業振興に向け、今後設立を予定している地域商社において、「観光・宿泊部門」「物販・ブランド化部門」「まちづくり部門」「エネルギー地産地消部門」のそれぞれにおいて一つ以上の事業を立ち上げることで、5年後に地域商社の新規事業数を「4以上」とすることを目指します。

重要業績評価指標（KPI）

| 重要業績評価指標名 | 現状値（H30） | 目標値（R6） |
|---|--|--|
| ①地域商社の活動支援 ：地域商社が連携する組織（企業、団体等）数 | — （地域商社未設置） | 5組織 |
| ②行政による産業支援 ：ジビエール五條及び五條市林産物加工施設における販売収入額 | ジビエール五條 ：11,882千円 林産物加工施設 ：—（未整備） | ジビエール五條 ：15,000千円 林産物加工施設 ：64,000千円 |

関連事業

| 関連事業 | ビジョン事業との関係性 |
|----------------|-------------|
| ①地域商社の活動支援 | |
| 地方創生推進事業（地域商社） | 第五條 |
| きすみ館大規模改修事業 | 第三條 |
| 観光施設改修事業 | 第三條 |
| 大塔温泉夢乃湯周辺整備事業 | 第三條 |
| ②行政による産業支援 | |
| ジビエール五條管理運営事業 | 第三條 |
| 林産物加工施設管理運営事業 | 第三條 |

プロジェクトの進捗状況

地域商社推進プロジェクトでは、地域商社の新規事業数を5年後に「4以上」とすることを目指して取組を進めています。令和2年度から令和4年度までの3年間は、地方創生推進交付金を活用し、地域産業ブランド推進事業に取り組んでおり、3年目となる令和4年度は、令和2年度に策定した事業計画に基づいて、「柿の葉ビジネス事業」「新商品開発事業」「人材育成事業」の3つの事業を展開しました。

重要業績評価指標（KPI）に対する進捗状況

| 重要業績評価指標名 | 現状値 (H30) | 実績値 (R4) | 目標値 (R4) | 達成率 | 目標値 (R6) |
|-------------------------------------|----------------|-------------|-------------|-------|-------------|
| ①地域商社の活動支援 ：地域商社が連携する組織（企業、団体等）数 | — (地域商社未設置) | 1 組織 | 2 組織 | 50.0% | 5 組織 |

地域商社の活動支援については、地域商社が2つ以上の組織と連携し、新たな取組を行うことを目標としています。令和4年度においてもコロナ禍の下、全国的な観光事業の不振により、指定管理している施設の運営が大きく低迷したため、地域商社ではその運営に総力を注ぎましたが、令和4年度の実績は1組織と、目標を達成することができませんでした。具体的には、官民連携組織である地域・産業ブランド協議会会員と協力して11のツアープランを設定し、モニターツアー事業を2回実施し、五條の魅力を改めて感じる体験ツアーを開催することができました。また、五條市認証マークを商標登録し、ふるさと納税返礼金説明会にて配布を行い、認証マーク活用の周知を行いました。更には指定管理施設の一つである道の駅大塔において、小中学生向けドローン体験飛行イベントを実施しました。

なお、市としては、これらの取組を進めるにあたって、地域商社や地域・産業ブランド推進協議会との情報共有、連携意識の保持を図ったところです。

| 重要業績評価指標名 | 現状値 (H30) | 実績値 (R4) | 目標値 (R4) | 達成率 | 目標値 (R6) |
|---|---|---------------------------|----------------------------|--------------------|--|
| ②行政による産業支援 ：ジビエール五條及び五條市 林産物加工施設における 販売収入額 | ジビエール五條 ：11,882 千円 林産物加工施設 ：—（未整備） | 5,678 千円 17,684 千円 | 13,000 千円 35,000 千円 | 43.7% 50.5% | ジビエール五條 ：15,000 千円 林産物加工施設 ：64,000 千円 |

行政による産業支援については、評価指標である販売収入額の令和4年度の目標達成率は、ジビエール五條は43.7%、五條市林産物加工施設は50.5%と、目標値に対して、大きく下回る結果となりました。

ジビエール五條管理運営事業については、令和3年度に豚熱がまん延した影響で、令和4年度もイノシシの捕獲頭数が十分に回復しておらず、販売額は前年度（5,463千円）の約104%の増にとどまり、目標値を大きく下回りました。豚熱への対策として、今年度も令和4年11月と令和5年2月に経口ワクチン散布を

行った結果、イノシシの捕獲数は徐々に回復傾向にあります。また、鹿肉についても、捕獲頭数が減少しており、食肉取扱量が減少する中、市内に開業した事業者へは、これまで廃棄処分していた鹿の骨や内臓の販売を開始しました。ジビエは地域経済を支える資源であり、五條ジビエのブランドを確立できるよう、付加価値を高める取組を推進していきます。

林産物加工施設管理運営事業については、令和4年度の販売収入額は17,684,422円と、前年度を上回ったものの、達成率は50.5%と目標値を大きく下回る結果となりました。令和3年3月ごろか始まったウッドショック（木材価格の高騰）は、その後もロシアの木材の流通が不安視され一時高騰しました。現在の製材価格は若干の下落傾向にはあるものの、続いているのが現状です。このような中、令和4年度は、製材用木材の調達が必要な製材事業を縮小し、木質バイオマス事業をメインに、木質チップの製造・販売に取り組みました。また、間伐由来等未利用バイオマス材のみならず、製材所から発生する一般材を調達する等、原木調達の強化に取り組んだ結果、約1,800tの原木が調達できたことで販売量が増加し、木質バイオマス利用目標が達成され、前年度からの販売収入額増加に繋がることとなりました。ウッドショックの終わりが見通せない状況であることから、今後も、バイオマス材の安定調達を強力に進め、当事業の原点である木質バイオマスによるチップの生産により、循環型社会の形成に貢献できるよう取組を推し進めます。

プロジェクト推進のための今後の取組

長引く新型コロナウイルス感染症のまん延をはじめとする様々な外的要因により、産業活動に大きな影響が出ている状況ではありますが、引き続き、地域商社による活動支援と行政による産業支援を行うことにより、市内に点在する様々な資源を活かしながら、新たな魅力と価値を創造することで、地域産業の振興に繋がるよう取組を進めます。

(4) 関係人口創出プロジェクト

基本的方向性

人口減少、少子高齢化が進展する中、定住までは至らなくとも、五條市に継続的に関わる「関係人口」と呼ばれる地域外の方が地域づくりに参画することで、担い手不足などの問題を解決することが期待されます。

本市においては、豊かな地域資源を守り、活用する取組を展開することで他都市との違いを明確にし、本市の様々な活動に興味を持って参画してくれる関係人口の創出につなげます。

事業展開イメージ

● 地域との関わりを**創**る

これから地域に関わりを持ちたいと考える人たちのニーズをとらえた取り組みの推進

- 伝統的建造物群保存地区の保存
- 五新線の活用推進



● 地域と関わりを**深**める

これまで地域との関わりがあった人達を対象に、地域と継続的なつながりを持つ機会の提供

- ふるさと納税の推進

関係人口の増大
定住してなくても
地域を支える担い手として
活躍する人材を増やす

● 地域との関わりを**広**げる

地域の資源や仕組みを活かし、新たな関係人口拡大に向けた取り組みの推進

- 関連自治体との連携事業の推進
- 自転車での観光促進



数値目標

関係人口とは、市内に住む定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。

数値目標については、関係人口増加の入口となり得る、ふるさと納税「体験型返礼品」の申込件数とし、平成30年度の実績である25件から、5年後には100件以上となることを目指します。

重要業績評価指標（KPI）

| 重要業績評価指標名 | 現状値（H30） | 目標値（R6） |
|-------------------------------|----------|---------|
| ①地域との関わりを創る ：五新線活用イベント実施数 | 3件 | 6件 |
| ②地域と関わりを深める ：ふるさと納税件数 | 3,683件 | 6,000件 |
| ③地域との関わりを広げる ：関連自治体との連携事業数 | 4件 | 6件 |

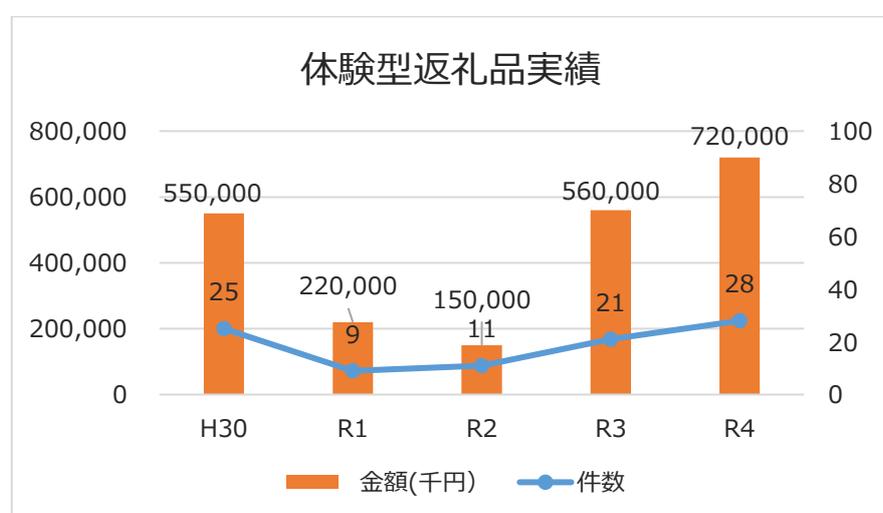
関連事業

| 関連事業 | ビジョン事業との関係性 |
|------------------|-------------|
| ①地域との関わりを創る | |
| 五新線活用事業 | 第三條 |
| 重伝建地区保存事業 | 第三條 |
| ②地域と関わりを深める | |
| ふるさと五條市応援寄附金推進事業 | 第三條 |
| ③地域との関わりを広げる | |
| 自転車活用推進事業 | 第三條 |
| 連携都市交流事業 | 第三條 |

プロジェクトの進捗状況

関係人口創出プロジェクトでは、令和6年度のふるさと納税の「体験型返礼品」の申込件数が100件以上となることを目標としています。令和4年度の目標申込件数は70件と定めていましたが、結果は目標件数を大きく下回る28件にとどまりました。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限が解除され、全国的に国内旅行が回復する傾向が見られましたが、その潮流を活かしきれなかった結果となりました。申込件数は目標値には届かなかったものの、コロナ禍前と比較しても、件数・金額ともに増えており、「体験型返礼品」を選んでくださった方に対しては、本市の魅力を伝えることができたのではないかと考えています。

「体験型返礼品」をより多くの方に興味を持って知っていただくために、紹介方法や返礼品サイトの改善に取り組んでいきたいと思えます。加えて、本市の魅力と寄附者のニーズを再度分析し、「体験型返礼品」のより一層の充実を図り、寄附者の満足度を高めるものとしたと考えています。



重要業績評価指標（KPI）に対する進捗状況

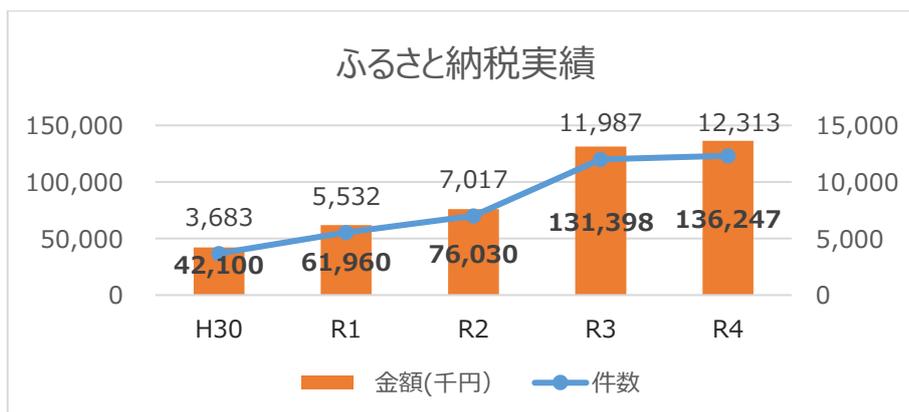
| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|------------------------------|----------|---------|---------|-------|---------|
| ①地域との関わりを創る ：五新線活用イベント実施数 | 3件 | 2件 | 5件 | 40.0% | 6件 |

地域との関わりを創るため、これから地域に関わりを持ちたいと考える人のニーズを捉えた取組を推進しています。評価指標では五新線活用イベントの実施数を5件としていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、「五新線ウォーク」を2回（令和4年5月28日・11月26日）実施したのみとなりました。「五新線ウォーク」は、城戸駅舎から新町通りまでを徒歩で巡るイベントで、普段は歩くことのできない幻の五新線跡地を、新緑と紅葉の時期に歩くというプレミア感から、市内外から約700人の方々に訪れていただきました。今後は、市内で長時間滞在していただけるイベントを実施することにより、参加者に本市の魅力を体感いただき、関係人口の創出につなげていきます。

| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R5) | 目標値(R5) | 達成率 | 目標値(R6) |
|--------------------------|----------|---------|---------|--------|---------|
| ②地域と関わりを深める ：ふるさと納税件数 | 3,683件 | 12,313件 | 6,000件 | 205.2% | 6,000件 |

ふるさと納税件数は、令和元年度から4年度にかけて、毎年増加を続けています（下図参照）。令和4年度の納税件数の増加は、新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限が解除され、人の動きが活発化する状況の下ではありましたが、コロナ禍を契機とした在宅需要が続いたためと考えられます。インターネットサイト経由でのふるさと納税寄附額（133,972千円）は、ふるさと納税全体（136,247千円）の98.3%となっています。令和4年12月のふるさと納税ポータルサイト「ふるなび」の導入後、令和5年3月までの4か月間で、同サイト経由で1,690,000円の寄附をいただきました。

今後は、ふるさと納税ポータルサイトの新規導入、マスメディアやSNSを活用した本市特産品のPR、返礼品の新規開拓等を更に推し進め、ふるさと納税を通じて、本市との関わりを持続していただけるような取組を進めます。



| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|-------------------------------|----------|---------|---------|-------|---------|
| ③地域との関わりを広げる ：関連自治体との連携事業数 | 4件 | 3件 | 3件 | 66.7% | 6件 |

大阪府八尾市、北海道余市町に加え、令和4年度は新たに北海道新十津川町と交流都市提携を締結し、連携事業を実施しました。

11月に開催した新庁舎開庁1周年記念イベント「Go! Join! にぎわいフェス in 五條」では、交流都市を締結している北海道新十津川町と、広域連携を締結している河内長野市にブースの出展をいただき、産業振興の推進につながる取組が実現しました。

また、広域連携を締結している河内長野市及び橋本市とともに、広域連携協議会設立50周年記念事業として、10月から12月までの3か月間、広域サイクリングイベントを開催しました。53チーム121名の方に参加いただき、関係人口として地域振興に貢献いただきました。

引き続き、持続可能な地域運営のため、広域連携による交流人口・関係人口の創出を目指します。

プロジェクト推進のための今後の取組

人口減少・少子高齢化が進んでも、一定の活力を持って地域の運営ができるよう、引き続き、各課が連携して関係人口の創出・拡大を目指す取組を推進します。

(5) 地域コミュニティ活性化プロジェクト

基本的方向性

地域コミュニティは、伝統行事の担い手の確保や市民同士の見守りによる防犯性の向上、災害発生時等の緊急時の互助・共助の取組等、市民生活において多岐にわたってその役割が期待されています。

しかしながら、本市においては特に中山間地域を中心に、人口減少や少子高齢化が進み、地域コミュニティの維持が困難になりつつあります。

このような状況に対し、市民活動に対する支援の充実や、事業者等と連携した分野間連携による取組の展開等により、衰退しつつある地域コミュニティの維持・活性化を目指します。

事業展開イメージ

● 分野間連携による

新しいコミュニティの場づくり

事業者等と連携し、福祉・芸術・農林業が連携したコミュニティの場を整備

- 大塔ライフハウスプロジェクト



● 既存のコミュニティ活動の

活性化

自治会や防災活動等の既存のコミュニティ活動の支援や活動の場の整備

- 自治連合会活動支援
- 元気まつり・健康サロンの継続開催
- 文化・社会教育・スポーツの推進



地域コミュニティの活性化

地域の方々が互いに支え合い、
伝統行事の担い手確保や安心・安全な地
域づくり等、様々な課題を解決していく



● 防災・防犯体制の充実

安心・安全なまちづくりを支援

- 防犯灯 LED 化促進
- 自主防災会の活動推進



● 地域とともにある

学校づくり

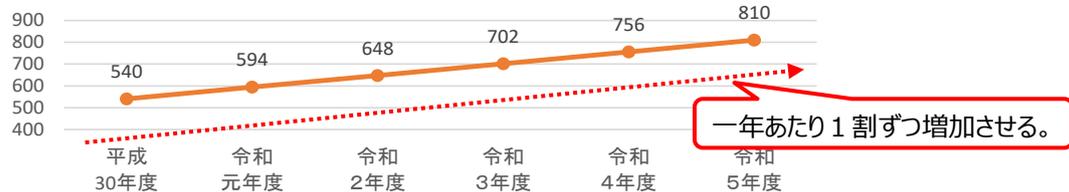
学校と市民等がともに学校運営に取り組むコミュニティ・スクールの体制づくり

- 学校・地域パートナーシップ

数値目標

地域コミュニティの活性化に資する各種取組の展開により、地域防災力の向上への意識が高まることが期待されます。これを図る指標として、地域防災組織による防災訓練参加者数を位置づけます。

平成 30 年度における防災訓練参加者数は 540 人であり、今後 5 年間で 1 割ずつ増加させることを目標とし、5 年後における目標値は 810 人と設定します。



地域防災組織による防災訓練参加者数目標

重要業績評価指標 (KPI)

| 重要業績評価指標名 | 現状値 (H30) | 目標値 (R6) |
|--|-------------|-------------|
| ①分野間連携による新しいコミュニティの場づくり：大塔ライフハウス施設利用者数 | 0 人 | 145 人 |
| ②既存のコミュニティ活動の活性化：公民館活動（自主クラブ・サークル活動）数 | 253 団体 | 253 団体（維持） |
| ③防犯体制の充実：LED防犯灯整備率 | 15.8% | 70% |
| ④地域とともにある学校づくり：学校と地域の協働活動回数（見守り活動・読み聞かせ・学校運営協議会等を含む） | 1 校平均 106 回 | 1 校平均 115 回 |

関連事業

| 関連事業 | ビジョン事業との関係性 |
|--|-------------|
| ①分野間連携による新しいコミュニティの場づくり 大塔ライフハウスプロジェクト事業 (福祉・芸術・農林業の連携による大塔地区再生事業) | 第五條 |
| ②既存のコミュニティ活動の活性化 | |
| 自治振興補助事業 | 第五條 |
| 自主防災会活動推進事業 | 第二條 |
| 地域交流事業（健康サロン・元気まつり） | 第二條 |
| 文化・社会教育等推進事業 | 第四條 |
| スポーツ振興事業 | 第四條 |
| ③防犯体制の充実 | |
| 防犯灯設置補助金事業 | 第二條 |
| ④地域とともにある学校づくり | |
| 学校・地域パートナーシップ事業 | 第一條 |

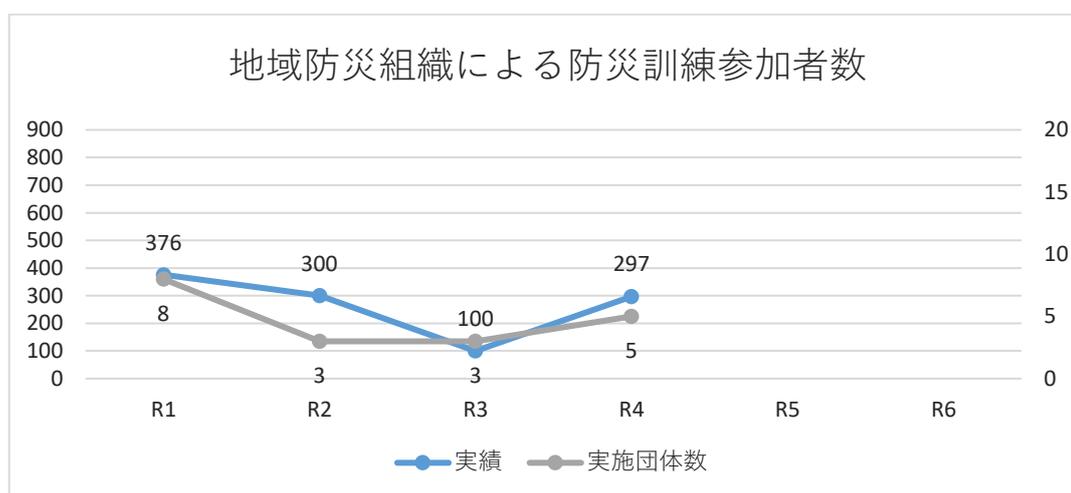
プロジェクトの進捗状況

地域コミュニティ活性化プロジェクトでは、地域組織による防災訓練参加者数を毎年1割ずつ増加させることを目標とし、5年後の目標値を810人としています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、23ある自主防災会のうち18団体で訓練の実施が自粛されたため、5団体のみの実施となりました。その結果、目標値702人に対し、実績値は297人と、目標値を大きく下回りました。地域の方の高齢化により、自主防災会をはじめとする地域活動に参加することが難しいと感じている方が増えつつある中、感染症に対する警戒感から、コミュニティ活動への参加を回避するという方が多くいたからではないかと考えられます。

なお、コロナ禍の状況でしたが、令和4年度においては、避難所運営や要配慮者支援勉強会、個別支援計画作成に向けた取組、避難所開設訓練、シェイクアウト訓練、自炊訓練、備蓄品の確保等が自主防災会によって実施されました。参加された方には、地域の防災に対する意識の高揚と防災力の向上に努めていただきました。

今後も、地域の防災力強化を目指した地区防災訓練や、地域の支え合いによる個別避難計画の作成等を自主防災会に実施していただけるよう、引き続き支援や啓発等を行います。



重要業績評価指標 (KPI) に対する進捗状況

| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|--|----------|---------|---------|--------|---------|
| ①分野間連携による新しいコミュニティの場づくり：大塔ライフハウス施設利用者数 | 0人 | 130人 | 50人 | 260.0% | 145人 |

令和4年度の大塔ライフハウス施設利用者数は130人となり、目標値である50人を大きく上回りました。

大塔ライフハウスは、地域の方が集い、豊かな人生を送るためのサークル活動などを行う生涯学習の場として定期的に利用されました。また、地域ケア会議も開かれ、高齢になっても住み慣れた地域で生活を送るための話し合いが行われるなど、大塔ライフハウスは活発に利用されました。

引き続き、地域の方が利用しやすい施設運営に努めるとともに、地域の憩いの場の充実を目指し、コミュニティの再生に繋がります。

| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|---|----------|---------|----------------|-------|----------------|
| ②既存のコミュニティ活動の活性化 ：公民館活動（自主クラブ・サークル活動）数 | 253 団体 | 222 団体 | 253 団体 （維持） | 87.7% | 253 団体 （維持） |

令和4年度は、公民館活動（自主クラブ・サークル活動）数の目標値253団体に対し、実績は222団体で、昨年度に比して22団体の減少となりました。その主な理由は、人口減少や高齢化によるクラブ・サークル活動への参加者の減少や、新型コロナウイルス感染症拡大による活動自粛に伴った解散団体の増加等が考えられます。

令和4年4月から五條市市民会館が休館となり、公民館活動を発表することが困難になっておりますが、工夫して発表の場を設け、市民各層の学習意欲の喚起を図るとともに、クラブ・サークル活動の活性化に繋がる取組を推進します。

| 重要業績評価指標名 | 現状値(H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|------------------------|----------|---------|---------|-------|---------|
| ③防犯体制の充実 ：LED防犯灯整備率 | 15.8% | 48.6% | 52% | 93.5% | 70% |

本事業では、夜間における犯罪を未然に防ぎ市民の安全向上を図るとともに、防犯灯の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図るため、自治会にその費用の一部を支援することにより、LED化などの防犯灯の整備を進めています。

令和4年度の防犯灯全体におけるLED化率は48.6%で、目標を達成することができませんでした。これは、補助金を出したとしても、残りの設置経費や電気代等が自治会の負担となるためと考えられます。

引き続き、防犯灯のLED化と修繕を推進し、安心・安全なまちづくりの実現に向けた支援を続けていきます。

| 重要業績評価指標名 | 現状値 (H30) | 実績値(R4) | 目標値(R4) | 達成率 | 目標値(R6) |
|--|--------------|--------------|--------------|-------|--------------|
| ④地域とともにある学校づくり ：学校と地域の協働活動回数（見守り活動・読み聞かせ・学校運営協議会等を含む） | 1校平均 106回 | 1校平均 108回 | 1校平均 110回 | 98.2% | 1校平均 115回 |

近年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各校園の地域・学校協働活動が制限される状況が続きましたが、登下校の見守りやふるさと学習、読み聞かせ等の授業支援、環境整備活動などの地域連携及び教育支援活動を各校園で展開しました。令和4年度は、1校平均110回実施の目標に対し、108回の実施となり、目標をわずかに下回る結果となりました。活動回数としては目標値に届かなかったものの、学校運営協議会や地域コーディネーターを対象とした研修会を実施するなど、地域とともにある学校づくりの取組を推進しました。

今後も引き続き、学校と保護者・地域が協働して、様々な教育課題の解決及び地域の教育力の向上を図るとともに、学校をベースとした地域コミュニティの再構築を進めていきます。

プロジェクト推進のための今後の取組

新型コロナウイルス感染症の流行により、コミュニティ活動が停滞した部分は少なからずありましたが、地域での学校づくりなど、一部の活動では感染症対策を講じたうえで、活発に行われました。今後も地域内の小さな連携を積み重ね、地域コミュニティの活性化に繋がる取組を進めていきます。

地方創生交付金事業の取組とその進捗状況

地方創生を推進するため、内閣府地方創生推進事務局では様々な交付金メニュー事業が用意されています。

五條市では、総合戦略プロジェクトの推進に加え、「地方創生推進交付金」を活用し、個別具体的な事業にも取り組んでいます。これらの取組についても進捗状況を把握し PDCA サイクルを推進することが、事業効果を高めることに繋がります。

(1) 地域商社産業創出推進事業

| | |
|-----------|---|
| 事業期間 | 令和2年度～令和4年度（3カ年） |
| 事業概要 | <p>官民連携で設立した地域商社株式会社による新産業創出に向け、下記の事業に取り組むもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 柿の葉ビジネス事業計画策定 (事業スキームと実施体制の検討・構築から、独立採算事業化に向けた事業計画の策定) ● 人材育成事業 (地域で活躍する人材の育成に向け、ビジネス塾等のセミナーを開催) ● 新商品等の開発計画策定 (特産品や体験ツアーなどの企画、開発から、独立採算事業化に向けた事業計画の策定) |
| 事業費（交付金額） | 6,999,300 円（3,499,650 円） |

担当部署：産業環境部 産業振興課

◆ KPI による進捗管理

| KPI | 当初値 | 1年目 | | 2年目 | | 3年目 | | 状況評価 | 備考 |
|---|------|------|-----|-------------|-----|--------------|-----------|------|--|
| | R1年度 | R2年度 | | R3年度 | | R4年度 | | | |
| | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | | |
| ビジネスマッチングにより就業、起業、創業した件数 (10件以上) | — | 0 | 0 | 5 | 5 | 5 | 5 | ○ | オンライン養成講座の開催 ビジネスマッチングの実施 |
| 民間企業による地域商社への出資金 (15,000千円) | — | 0 | 0 | 5,000 千円 | 0 | 10,000 千円 | 300 千円 | △ | 地域商社役員4名より出資があったが目標に至らず。コロナ禍による地域経済の衰弱により民間出資の機能低下が原因と考える。 |
| 地域ブランド調査（ブランド総合研究所）における「本市の認知度（300位以内）」 | 599位 | -100 | +38 | -100 | -66 | -100 | +35 | △ | 当初順位の599位から最終年度は606位になり7ポイント下落となった。コロナ禍のニーズ対応したPR戦略が展開できなかったことが原因と考える。 |
| 地域商社の活動により企業や団体が連携して行う事業数（4件以上） | — | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | ○ | 道の駅でのドローン体験、エアコンルーバー商品化検討、モニターツアーの実施 |

◎：数値目標は達成済み ○：達成に向け事業推進中 △：より一層の努力が必要 -：指標の見直しが必要

(2) 高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト

| | |
|-----------|--|
| 事業期間 | 令和2年度～令和6年度（5カ年） |
| 事業概要 | <p>地方の魅力的な教育環境を全国の自治体（島根県を幹事自治体とし、4県14市35町2村1組合）と一体となって都市部へ届けることで、地域の高校留学という選択肢をつくるなど、下記の事業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地方の魅力ある教育環境や受入体制について都市部等へのプロモーションを展開 ● 都市部等で中学生親子に向けた合同説明会「地域みらい留学フェスタ」を開催 ● 地域と高校をつなぐことに特化した人材や専門スキル・ノウハウを持つ NPO 法人等を「魅力化コーディネーター」として配置 ● 高校生による地域での就業観を醸成する「インターンシップ」の実施 <p>五條市では、西吉野農業高等学校の魅力化を推進するため、本事業において、下記の取組を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「地域みらい留学」を活用し、都市部等へのプロモーション・合同説明会への参加 ● 地域と学校をつなぐコーディネーターの配置 ● 高校生による地域での就業観を醸成するため、農業実習・就労体験活動の実施 ● 全国から募集した生徒のための寮の運営 |
| 事業費（交付金額） | 38,443,458 円（19,221,729 円） |

担当部署：教育委員会事務局 教育総務課・学校教育課

◆ KPI による進捗管理

| KPI | 当初値 | 1年目 | | 2年目 | | 3年目 | | 4年目 | | 5年目 | |
|-----------------------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| | R1年度 | R2年度 | | R3年度 | | R4年度 | | R5年度 | | R6年度 | |
| | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 |
| 入学者数（人） （翌年4月1日時点） | 32 | 30 | 17 | 30 | 17 | 30 | 19 | 30 | | 30 | |

| 状況評価 | 備考 |
|------|--|
| △ | <p>令和4年4月の入学者数は19人で、目標値の半数以上は達成した。</p> <p>卒業する生徒に対する移住・定住支援等、政策間連携の推進なども含め、学校のさらなる魅力向上に努めたい。</p> |

◎：数値目標は達成済み ○：達成に向け事業推進中 △：より一層の努力が必要 -：指標の見直しが必要

(3) 新庁舎及び旧庁舎周辺を核としたにぎわいづくりによる関係人口創出プロジェクト

| | |
|-----------|--|
| 事業期間 | 令和4年度～令和6年度（3カ年） |
| 事業概要 | <p>人口減少、少子高齢化が進展する中、新庁舎・旧庁舎周辺において、多くの人を呼び込むイベントを各課が連携して実施し、関係人口の増加を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●にぎわい広場におけるマルシェ等開催事業 （ツリーイルミネーション事業、平安女学院大学と連携した柿 PR 事業） ●吉野川活性化イベント開催事業 （二見漁港魚市線、魚のつかみどり、カヤック体験） ●サイクリングイベント開催事業 （奈良県立大学と連携した地域資源 PR 事業） ●地域連携 PR 動画作成事業 ●重要伝統的建造物群保存地区選定 10 周年記念事業 ●デジタル技術を活用した情報発信 |
| 事業費（交付金額） | 11,777,613 円（5,888,806 円） |

担当部署：市長公室 企画政策課

◆KPI による進捗管理

| KPI | 当初値 | 1 年目 | | 2 年目 | | 3 年目 | |
|--|-------|-----------|-----------|---------|-----|-----------|-----|
| | R3 年度 | R4 年度 | | R5 年度 | | R6 年度 | |
| | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 |
| 開催者側の立場でイベントに 参画した人数(人) | 0 | 10 | 283 | 20 | | 20 | |
| SNS を利用したアンケート回 答者のうち市外の方の人数 (人) | 0 | 100 | 110 | 100 | | 100 | |
| マルシェ等出展者の総売り上 げ(円) | 0 | 1,500,000 | 2,709,050 | 500,000 | | 1,000,000 | |

| 状況評価 | 備考 |
|------|---|
| ◎ | <p>7つの課が連携して実施するため、定期的に協議の場を持ち、本事業の目的についても認識を共有して取り組んだ結果、設定したすべての目標を達成した。</p> <p>2年目は、1年目に実施したアンケートの結果や参画者からの意見等を踏まえ、各事業がより相乗的に効果を発揮できるよう、引き続き連携して取り組む。</p> |

◎：数値目標は達成済み ○：達成に向け事業推進中 △：より一層の努力が必要 -：指標の見直しが必要